

市政に対する

一般質問



市民の問い合わせについても対応できるサービスを

公明党 井上 賢二

●デジタル社会の構築について
 Q 市民の問い合わせに、人工知能(AI)が24時間対応で回答する「AIチャットボットサービス」を鳥取県米子市が令和2年11月に開始したが、導入を検討しないか。

A 近隣市などでも導入が進んでおり、ニーズは高まっていると考えている。AIの精度はまだ低く課題があるため、慎重に議論していきたい。

●脱炭素社会の実現について
 Q 政府が表明した、2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」に向け、今後、どう施策を展開していくのか。

A 太陽光発電設備の導入費補助などに加え、下水汚泥を利用した消化ガス発電事業に着手する。今後も、国の動向や他自治体の事例などを調査し、排出抑制に努めていく。

●オンライン学習と不登校対策について
 Q 不登校児童・生徒が、小学校で45人、中学校で127人と深刻な状況だが、どう対応しているのか。また、オンライン学習の動向は、

A 教員のほか、スクール



幼児2人同乗用自転車の貸し出しが行われました<市役所南側広場にて>



市民が待ち望む図書館の未来図をどう考えているか

あやせ未来会議 安藤多恵子

●図書館の未来を考える
 Q 市民が待ち望んでいる図書館の検討や議論は進んでいるか。また、これも図書館が必要と考えるが、市は未来図をどう描いているか。

A カウンセラーなども対応し、中学校では、教室に行けない生徒の居場所として支援ルームを設置している。また、一人一台端末は、不登校でも、学習を保障する有効な手段と考えており、活用していきたい。

●広報の在り方について
 Q 市の広報は、広報媒体が多様化する中で、対象者の設定や発信方法が重要となっている。市の魅力を発信する、シテイプロモーションを含め、全体を統括した戦略が必要な時代だが、市の考えは。

A 対象者に適した媒体を選択するなど、相手を意識した広報が必要である。情報の受け手の行動変化につながる戦略的な広報活動の推進に向け、全庁的に取り組むたい。

●教育長の信念について
 Q GIGAスクール構想により、情報通信技術(ICT)教育が始まる。ICTツールは不可欠だが、学校教育での偏重が懸念される。環境整備に向けた教育長の信念は。

A 学習ツールの一つとしてICTを活用することが求められている。学校現場での実践とICTを最適に組み合わせること、教育の質向上につながるかと考える。



インターチェンジ開通後の交通安全対策への準備は

創政会 笠間 功治

●綾瀬スマートインターチェンジ開通後の周辺道路対策について
 Q 開通後に交通安全対策を求める声が出た際の準備が必要である。信号機や道路標識、路面標示の設置が迅速に行えるよう、県警と事前に連携を進めるべきだが、どうか。

A これまでも住民要望を基に、車両進入対策などを県警と協議してきた。開通後に問題が発生した箇所は、早急に現地を確認し、効果的な対策を県警などに求めていく。

●生活困窮者自立支援制度の活用状況について
 Q 新型コロナウイルス禍で、生活困窮者の大幅な増加が懸念されるが、本市での生活困窮者自立支援制度の活用

A 状況と今後の見通しは。相談件数が令和元年度の約3倍、住居確保給付金は、支給月数が15倍に増加した。相談が多い状況が続くと考えており、引き続き、必要な制度につながるよう支援する。

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。3月定例会では、3月16日・17日の本会議で14人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、6ページまで続きます)。

詳しい内容は会議録・HPで

市議会だよりは、紙面の都合で発言の一部を掲載しています。詳しくは、市役所内情報公開コーナー、市立図書館、市議会に備えてある会議録をご覧ください。また、インターネットでも、会議録の閲覧や検索ができます。

綾瀬市議会

なお、3月定例会の会議録は、5月下旬に閲覧できる予定です。

議案は、このように審議されます



市長や議員が提出

